



# ものづくりの歴史

## ～先人たちの知恵・工夫～



### 【石器】

人類は石器の使用により、食料を獲得する幅が広がりました。自然環境の変化とともに、多くの種類の石器が作られました。



①すり石・石皿 クリやクルミなどの木の实をすり潰すために使用されました。  
②土堀り具（打製石器）  
③石斧（磨製石器）  
（①②③ともに出土地不明）



④鏃 矢の先につける石器。弓矢の使用により動きのすばやい中型・小型動物（シカ・イノシシなど）を捕獲しやすくなりました。（縄文時代・約 8500 年前 下堀遺跡・岡別府）



⑤石核（左）と剥片（右）石核を打ちかき剥片をとりだし、その剥片が石器になりました。（縄文時代・約 8500 年前 下堀遺跡・岡別府）

### 【土器】

土器の発明により、煮るという調理法や木の実のあく抜きが可能になり、食材のバリエーションが増え、また食材をやわらかくして食する方法が採れるようになりました。そして人口の増大につながりました。土器作りは、様々に工夫されより薄く、より軽く、より強く変化していきました。



①深鉢形土器（縄文時代）  
約 8500 年前  
下堀遺跡・岡別府



②甕（弥生時代）  
約 2000 年前  
沢目遺跡・益丸

③壺（弥生時代）  
約 2000 年前  
下堀遺跡・岡別府

④甕（古墳時代）  
約 1500 年前  
沢目遺跡・益丸  
甕は煮炊き用土器  
壺は貯蔵用土器

### ～土器の作り方～

- ①素地作り＝粘土に土を混ぜて練る
- ②土器の底を作る
- ③粘土ひもを積み上げる
- ④成形・調整を行う
- ⑤模様をつける
- ⑥乾燥させる
- ⑦焼く



先人たちは、より良く生きたいという想いから、様々なものをつくり出してきました。私たちはこれからどのようなことを想い、どのようなものをつくり出していくのでしょうか。

大崎町教育委員会・古田